

# アジア・アフリカ ラテンアメリカ

# おおさか AALA

非核・非同盟・平和・友好・連帯

〒540-0004 大阪市中央区玉造 1-6-11 黒石ビル3F

2025年 3月1日 No. 625

大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会



グエン・ゴックさんを囲んで

2月9日 ダナンにて

## ベトナム平和交流ツアー

見て聞いて、学んできました

大阪AALA企画 『鈴木勝比古氏と行くベトナム平和ツアー』として2月7日～13日に、参加者23名で、ハノイ、ホイアン、ホーチミンに行ってきました。

### グエン・ゴックさんとの懇談

ベトナムツアー3日目は、ベトナムの著名な作家でジャーナリストのグエン・ゴックさんとの懇談で、ベトナム戦争を学ぶという今回のツアーの目的の一つでもありました。

すでに92歳という高齢のため、体調によってはお話を聞き、交流することができないことも想定していましたが、グエン・ゴックさんは、足取りはやや不安定であるも、しっかりと口調で「海のホーチミンルート」に関わる詳しい話をしてくれました。ひと通りのお話の後で、

何人かの質問にも答えてくれました。通訳はグエンさんとは旧知の鈴木勝比古さんです。

### 無名の戦士たちを書きたかった

小国のベトナムが軍事大国のアメリカになぜ勝利することができたのか。

それは戦争終結までほぼ秘密にされていた武器弾薬を運ぶ壮大な海上輸送網が作られ、それを支えた名も無いベトナム人民の命をかけた協力があつたからである。その幾多の「無名の戦士」たちの功績を私は書きたかったと言われました。

最後にグエン・ゴックさんの言った「独立と自由を勝ち取るためにたたかった」「戦争は心を痛める。ベトナム人は平和を尊重する」との言葉は胸に響きました。

(粕谷 武志)

# ベトナム平和交流ツアー お礼と報告

ツアー団長 堀内保孝

今回のベトナム旅行は、内容も濃く、ベトナム戦争の学習、現在と未来のベトナムを考える見学という面において大きな成功を収めることができたと思えます。

その概要は以下の通りです。(各行程の詳細は紙面に御覧ください。)

**1日目**は鈴木勝比古さんが、『ベトナムの過去・現在・未来―北部・中部・南部を縦断しながら考える』としてパワーポイントを使っての話をしてくださいました。

**2日目**は午前中はベトナム独立の起点となったハノイ市民劇場、バディントン広場、ホーチミン廟、ホーチミンの家等の見学。午後は「空のディエンビエンフーB52博物館」の見学。そして、フランス・中国の援助でできた高架鉄道体験乗車です。

**3日目**は飛行機でダナンに移動して、ホイアンに向かい、『海のホーチミン・ル

ート』、『中部高原の仲間たち』、『不敗の村』の著者グエック・ソック氏との懇談を鈴木さんの通訳で行いました。午後は谷屋弥次郎兵衛の墓を見学しホイアンへ。すごい人出でした。

**4日目**はクアンガイ省にある「ソンミ虐殺記念館」で館長さんとの懇談。その後米兵に射殺された、「女医ダン・トウイ・チャム記念館」に行きました。

**5日目**はダナン空港からホーチミン市(旧サイゴン)へ移動、戦争証跡博物館、統一会堂、郵便局(フランス風)見学。サイゴンスカイデック展望台からサイゴン市を一望。

**6日目**、ホーチミン市青年文化センターで、ベトナム戦争当時、コンダオ監獄などでたたかった元政治囚の歌声チームとの文化交流は熱烈に歓迎されました。

昼はバンタイン市場で昼食と買い物。午後は昨年末に開通した地下鉄に乗ってカフェに行き、幼稚園の先生・雑誌記者の方との懇談をしました。

**7日目**はベトナム航空でホーチミン市から関空へ帰国。

こうして書いてみて実に濃密で有意義な旅行でした。最後になりますが、細密な企画をして頂いた鈴木勝比古氏とJU観光さんに深く感謝します。また旅行中の参加者のみなさんの御協力に感謝申し上げます。



## 1日目・2日目 ハノイ ホーチミン廟とB52博物館

### ベトナム学習会

2月7日7時30分に関空に集合。10時発のベトナム航空でハノイ・ノイバイ空港へ。

1日目に着いたホテルでの鈴木勝比古氏のパワーポイントの『ベトナムの過去と現在、そして未来』の話をお聞きしました。明日からのベトナムツアーのための学習会です。お話のあと、私は2つの質問をぶつけてみました。

### なぜ勝てたのか

質問の一つは、なぜベトナムは、アメリカに勝つことができたのかというもので、素朴で、根本的な質問でした。ベトナム軍と南ベトナム傀儡政権と米軍の戦いであ

れば、いくらジャングルを地の利とするゲリラ戦であり、中国や、ソ連の武器援助、世界の様々な応援であっても勝つことはできなかったのではな

いかと考えられる。事実アメリカも短期間で勝てるものと考えていたと思われる。長い間フランス、日本の支配に苦しめられてベトナム人民の心に勝つまで戦うという思いをいだかせたのは、何か。それは、ホーチミンの「独立と自由ほど尊いものはない」という言葉に象徴されるベトナム人民の熱い思いに他ならない。

侵略戦争と人民戦争との根本的な差異を深く再認識させられました。

### 原発建設の現状は

もう一つの質問は原発をめぐり、日本の激しい売り込みにもかかわらずそれを一度ははねのけていくという事実ですが、まだ原発建設断念にいたるまでになっていない現状についてのものではない。

ベトナムの賢明な判断を待ちたいものです。

### 断腸の思いで夜遊びを控える

夕食は1日目にふさわしく、ベトナムの伝統料理のフルコースでした。食通ではない自分にはメニューの全てに言及できませんが、ニンニク入り朝顔の炒め物がすごく美味しかった。空芯菜の炒め物も美味しかった。

蓮の实のお茶もい。そして、ベトナムの米は美味しいと率直に思いました。ベトナムの伝統料理は自分に合うなあと思う。これならベジタリアンも悪くないぞと思ってしまう。

夜にこっそり抜け出してナイトマーケットや旧市街に出かけようかと思うも我慢する。団長にされた効果は大きい。断腸の思いで、夜遊びを控える。

こうしてこの後のベトナム旅行に思いを馳せて一日目は終わりました。



ハノイの街角

### ホーチミン廟

2日目、バディン広場(独立宣言)に行く。それに面して「ホーチミン廟」「ホーチミンの家」「一柱寺」、「ホーチミン博物館」がある。ベトナムの政治の中心部です。

69年に死んだホーチミンの遺体がエンバミングを施されて冷凍保存されている。何も持つて入ることができないように厳重に警備されている。もちろんスマホの撮影も禁止されている。

ホーチミンが望んだ訳ではないし、個人崇拜を良くとするものではないが、ベトナムに自由と独立をもたらした親しみやすく高潔な

人柄のホーチミンを一目みたいという気持ちは実によく分かる。僕もしみじみとホーチミンの顔を眺め感慨深いものがありました。

前から来たいと思っていたけどやっとベトナムに来たことを実感しました。

でも、自分が見終わったから言うわけではありませんが、死してなおホーチミンをこき使うのではなく安らかに眠らせてあげて欲しいなあと感じました。



ホーチミン廟の前で

### 高架鉄道とB52博物館

その後フランス・中国の援助でできたハノイ高架鉄道に体験乗車しました。戦後50年が立つというのにこれだけしか首都ハノイにもないのかと考えると改めてベトナム戦争の傷の深さを実感させられます。

窓から見る景色も地震が少ないからとはいえない建物もまだ随分あります。歴史的に意味があるから残していると言うわけでもなさそうです。

午後は、「空のディエンピエンフーB52博物館」の見学に行きました。B52は予想以上に大きなものでした。

撃墜されたB52の残骸が1機分前庭に展示されています。北爆は766回、ハノイ市だけで444回、学校、病院、民家にも、1万トン(2万370トンという説もあります)落とされ2380人の死者、1355人の負傷者が生じました。まさしく無差別絨毯爆撃が行われました。これをはねのけたわけです。すごいものだと思います。(堀内保孝)



### 3日目 ホイアン

#### 谷屋弥次郎兵衛の墓とにぎわうランタンの中

ハノイを出発して飛行機でダナンへ、バスでホイアンに向かう。日本と同じような水田風景が広がる。その田園の中に谷屋弥次郎兵衛の墓があった。日本が御朱印船で交易をしていた頃にベトナムに住み、鎖国が始まることを聞いて当時住んでいた日本人の帰国に尽力した人で本人はベトナムで亡くなっている。

ホイアンには数百人規模の日本人街があった。この後途中で電気自動車に乗り換えて約180年前の町並みが残る旧市街に向かう。旧市街は歩いて散策、大勢の観光客で大変なにぎわいだった。明日はランタン祭りなので日本人客もたくさん来るそうだ。

まず目に入るのがランタン、至る所に吊るしてある。トウボン川にはポンボン船が行き交い船にもランタンが灯っている。日本人が建造したといわれる来遠橋、貿易陶磁博物館、などを見学した。

貿易陶磁博物館には商人の沈没船から見つかったという日本の陶器などが展示されていた。

(北瀬照代)

4日目 ソンニ虐殺記念館と  
女医ダン・トウイ・チャム記念館訪問

この日は、8時半にホテルの前で20名(3名は別の所へ行きまし)に乗せたバスは、130kmを、2時間半をかけて一路ソンニ村に向けてひた走りました。



が掲載され、真相の一端が明かされたというものです。

着いた所が虐殺事件で有名なソンニ村でした。先ずはソンニ虐殺記念館の女性館長(犠牲者の遺族の一人)を囲み、鈴木勝比古さんが通訳をされる形で会談が始まりました。当初30分程度を予定していた会談はメンバーからの熱心な質問が続き、1時間半を要しました。

この記念館の中には虐殺された人々全員の氏名が年齢と共にシリーフとして掲示されており、目をそむけたくないような被害者の凄惨な姿を写した写真も展示されていました。

この中で、「ソンニ事件の被害者(遺族)は米国内に損害賠償は求めなかつたのですか?」との問いに、彼女は「私はそのような立場にありません。このソンニ村で起きた事件を世間に知らしめることが私の使命です」との明快な答えが印象的でした。

その後、我々は近くの簡素なレストランで遅い昼食を摂り、またバスに乗り込んで50kmを走り、ダントウイ・チャム記念館に到着しました。

この記念館はソンニ虐殺記念館よりは有名ではありませんが、医師ダン・トウイ・チャムの石像が設置されることになり、医療活動の様子の子の写りが飾られ、彼女の偉大さがよく表現されていました。

ハノイ医科大学を卒業して医師となった彼女は、20代の若さで戦場に赴き、北ベトナム兵たちを献身的に診たことでした。彼女の最後は、120名の米兵に囲まれながら一人

で防戦を続け、後方の傷病兵を逃がしたというものの、ついに米兵の銃弾が彼女の額を貫いたというものでした。



ダン・トウイ・チャムの石像

(仁科隆)

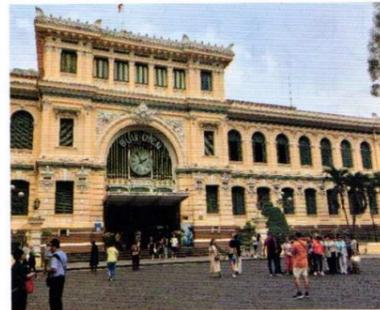
5日目 (2月11日)

50年前の記憶が蘇った  
統一会堂

早朝ホテルを出発し、国内便でホーチミンへ。ホーチミン空港を出ると、太陽の日差しが強く、まるで別の国に来たようでした。気温31度、ホイアンとの気温差は約10度です。

最初に訪ねたのは「郵便局」です。クリーム色の壁に緑色の窓、柱等に細かな装飾があしらわれている豪華な建築物です。ヨーロッパ統治時代に建てられたそうで、玄關の上部には大きな時計、その

上には「BUU DIEN」(郵便局)の文字、時計の下には「1886年・1891年」とこの建物を建築し始めた年と完成された年が書かれています。「BUU DIEN」はフランス語からの借用語ですが、郵便制度はフランス統治時代に整えられことがわかります。



統一会堂

次に訪れたのは「統一会堂」です。南ベトナム政権時代に大統領官邸であったところで、大統領とその家族が暮らした豪華な部屋がそのままに公開されています。バルコニーに立つとレユアン通りが見通せます。1975年4月30日、北ベトナム解放軍の戦車がこの通りを進軍し、官邸の柵を突き破って無血入城となったのです。

1975年当時、私はまだ小学生でしたが、なぜかこの日の記憶が鮮明です。テレビでこのニュースが報



(尾川理江)

道されるのを見て、私が何か質問したのでしよう、母が「ベトナムでは長い間戦争をしていたから、学校に行けなかった子どもも多かったんだよ」と答えました。「戦争が終わったから、今から学校に行けるね」と言いかけて、戦争が長かったから学校に行けないまま、大人になったんだと気づき、「その子たちはもう大人だから学校に行けないね。」と慌てて言い直しました。

その後の会話は忘れてしまいました。ベトナム戦争で多くの犠牲があったという印象が記憶に刻まれました。今は芝生の庭が美しいサイゴン陥落の現場を前にして、50年前の会話が蘇り、今日までのベトナムの人々の努力に思いを馳せました。

その後、戦争証跡博物館を鈴木勝比古さんの丁寧な解説で見学し、最後にホーチミンで2番目に高いビルの展望台(178m)から町を見渡しました。

きました。

1945年には日本軍の食料収奪によって200万人の餓死者を出し、以後の独立戦争、内戦、アメリカとの戦争で数百万人の戦死者を出したのですから。しかし、戦争後の経済建設においては、試行錯誤の連続であったと思えます。

ドイ・モイ政策によって経済が持ち直し、現在に至っているのですが、「汚職」が共産党上層部まで及ぶ現状を見るにつけ、一党支配のままではいけないと思っています。

「言論の自由」と「多党制」の導入がどうしても必要だと思えました。ベトナムが、日本の成功例や失敗例を研究して「身の丈にあった」経済建設が進むことを願ってやみませ

参加されたみなさんの感想です

ジャーナリストとしての50周年に感謝

大阪府学連時代いろいろな世話になった関係と、グエンコック氏の訳本をよんで、このツアーには参加を決めました。また、弊社でも4月には協会設立70周年、解放50周年の記念事業としてツアーを計画しています。その視察ということがあります。

しんぶん赤旗の特派員として、さすがに話題には重みもあり知ることのない情報も聞かせていただき大変有意義でした。旅行社の企画もよく考えられたも

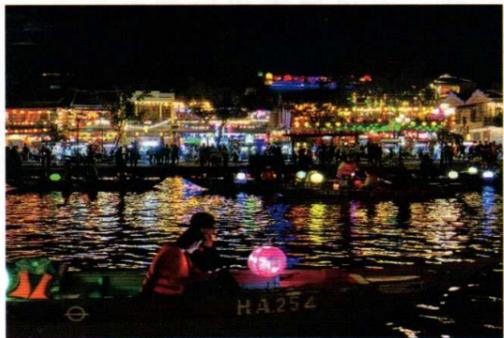
のと感心しました。

しかし、ハノイでは、タンロン遺跡について何か解説があったらとは思いました。この発掘には弊会のメンバーが深く協力していましたから。

ダナンのグエンコックさんに会えたのは感動です。個人的にはさらに少数民族の話も聞きたかったのですが、ホイアンのホテルは、本来のホイアンを感じるには場所が離れすぎだったかな。あの喧騒を感じるには少し短かったでしょう。

ダナンの五行山は尋ねてほしかったところ。HCMCでのB52の博物館はこれまで訪問の経験がなくよかったです。青年会館での交流会は

ベトナム旅行感想



ホイアン

ベトナム戦争終了後、ドイ・モイ政策でベトナムがどのような発展を遂げているのかを覗いてみたいというのが、AALA旅行に参加した目的でした。ベトナムは、戦後(1975年)から人口が倍の1億人になっていることに驚

北之橋博士

参加されたみなさんの感想 続き

「鈴木勝比古氏と行くベトナムツアー」に参加して

あのベトナム戦争が終

結した1975年4月30日の「サイゴン解放」のとき、ぼくは大阪市役所の職員で、自治労傘下の大阪市職の組合員だった。1960年代後半からのベトナム戦争反対の国民的な世論のなかで、青年部役員をしていたぼくは、よく御堂筋での集会やデモに参加をした。ベトナム戦争は青年時代の証（あかし）でもあった。ホー・チ・ミンはもちろん、ゴ・ジン・ジエム、ゴ・バン・チュウなどの当時のベトナムの政治家の名前は今も忘れていない。「自由ベトナム行進曲」もよく歌った。そんな青年時代の強烈な思いをもって、今回のツアーに参加した。ベトナム戦争の終結となった

サイゴン解放から50年。いま、日本にきているベトナム人は60万人と言ふ。なぜこれほど多いのか。いまベトナムはどうなっているだろう：この目で見たい、知りたい：タイムリーなツアーにワクワクした。

元政治囚のみなさんの合唱、道路に沿って立ち並ぶベトナム国旗&ベトナム共産党旗、主要な場所に配置された兵士などを見て「ああ、ここは社会主義国なんだ」と思わせてくれた。一方で、あふれるバイクとクルマ、ついに開通した地下鉄の都市交通路、高層マンションや商業施設、スマホの普及など、自由経済政策導入による急速な経済発展の姿に驚いた。

まだまだ都市部と農村との格差はあるだろうが、資本主義社会の弊害がベトナムの国民の貧富の差の拡大につながらないように、社会主義国家としてのコントロールで国民の幸せをつくりだしてほしいと思う。

西岡 健二

ハノイの街角



ベトナムツアーに参加して

ベトナムには一度は行きたいと思っていた。だから、声をかけてもらった時になんとかしていきたくて思った。でも、資料をもらった時、なんかベトナムのことも何にも知らない自分に気が付いた。行くまでに課題も出ていたしと思いつつ、本も手に入らないし、日は過ぎていくし、結局、何もできないで出発の日が来てしまった。

だから（？）、話が新鮮で「へ〜」と思いつつ、結構しつかり話を聞いたかなと思ってる。

どうして、世界から争いごとがなくならないのだろうか。今も内戦も含め、地球上のあちこちで傷つけあい、殺し合いが行われている。多くの人が泣いている。今回のツ

アーでベトナムでの過去の戦禍に触れ、その足跡に触れ、さらに平和な世の中のためにできることはやりたいと思った。

最終日の現地の方とのエールの交換は本当によかった。歌は苦手な方だが、あの場で歌えたことは大きな素敵な思い出になった。いただいたぎんがむチェックのスクーフも大事にしたい。

色々あり、スタッフの方にはお世話になりました。久しぶりにかなり長い期間の旅でしたが、終わってみると、あつという間だったようにも思えた。

前田 厚子

ベトナムの人民戦争を知ることができました

戦争に関してはかねがねきちんと正しい知識を得なければいけないと思つて来た。

今回ベトナム戦争について、人民戦争と称する真意を知ることができた。ベトナムの人々は、軍隊だけで戦争するのでなく男も女もすべて総力あげてたたかったのだ。

絵本「かあさんはおるす」を思い起こした。

戦争証跡博物館で、捕まった兵がガリガリの身体でオりに現れた姿は恐かった。

南ベトナムのサイゴンが独立後ホーチミンと改められたが旧サイゴンのままの名称を懐かしく使用する人がいるそうだ。『ふるさと』のしのぶ思いを感じたのかと心が温められた。

中村玲子



ありがとうございました

大阪AALA企画の平和ツアーに参加して大変良かったです。プログラムも確認せず、ベトナムに行ったことがなかったのにお誘いを受け、久しぶりの海外ツアーとなりました。これまで戦跡は何か所か言ったことがありますが、ベトナムの事はほとんど知らないもので、ちよつと違った内容でよかったです。みなさん熱心で圧倒されました。交流会は驚きましたが、良い記念になりました。ありがとうございました。

玉本 佳子

鈴木先生はすごい人物だったんだと現地に着いてとても感心しました。戦争当時の話も大切だと思います。

だからこそ今のベトナムの庶民のくらしや新しい軍事情勢、総兵力、防衛装備、技術力、世界19位とはどんなぐらいのものなのか、知りたかったです。よくわからないまま参加させて頂いて誠にありがとうございます。たくさんの方々との交流できた事は光栄です。

岩川 美加

1990年生まれの私にとってベトナム戦争ははるか昔の出来事だという認識で教わることもほとんどなく、3度目のベトナムでしたが、遺跡を巡ることが多かったため、今回、初めて戦争に向き合い、現地の方のお話、そして今回のメインとなる鈴木先生のお話、実際に触れることで、ベトナム戦争が一気にくつきり見えるようになりました。

普通にベトナム旅行に来るだけでは、体験できない貴重な時間を過ごせました。ただ過去を見るだけでなく、今のベトナムをゆっくり満喫できる日があると、より有意義な旅行になったかなとは思っています。またステキなツアーの企画を楽しみにしています。

岩川 知加

紙面の関係で他の方の感想は次号にさせていただきます。申し訳ありません。

### 卓ちゃんの ミクロネシア通信 その2

現在、私が長期滞在しているミクロネシアにあるチューク諸島の話の続きです。ここはかつてトラック諸島と呼ばれ、太平洋戦争中は連合艦隊の司令部が置かれていました。今、私の目の前に広がっているこの海に、かつて戦艦大和や戦艦武蔵を中心とした連合艦隊の主力が停泊していたのです。

1944年2月10日、秘密裏に連合艦隊はトラック諸島を離れサイパンに後退。その1週間後の2月17日早朝、2日間にわたるトラック大空襲が始まりました。



放置されたままの戦車



まず、飛来した500機あまりの米軍機によって駐機していた飛行機がねらわれて2時間足らずで壊滅。その次に標的にされたのが連合艦隊に置き去りにされた輸送船でした。40隻近くが沈没。燃料、食料庫も焼き払われました。2日間空襲で亡くなった人は7000人を超えたといえます。この空襲で連合艦隊の拠点としての機能を失ったものの、トラック諸島が米軍の基地として利用されることを怖れた大本営は、多くの将兵を送り込んで再建に取り組みます。しかし4月30日からの2日間に渡る第2次トラック大空襲によって再建しつつあった施設などは再び壊滅状態になってしまいました。この空襲では3000人あまりが亡

8ページへ続く



高射砲



トーチカ

7ページからの続き

サイパンで戦う決死隊を募集しましたがサイパンまで行く船がなく、その計画は消えてしまいました。自生しているバナナ、パイナップル、マンゴーなどでは食糧は足りるわけはなく、狭い土地を耕し、芋を植え、食糧にしました。トラック諸島にいた兵士は1年半、孤立した島の中で生き続けることだけが目標となっていました。目の前には広大な太平洋が広がるだけで、敵の姿はないのですから。トラック諸島では終戦までに5000人にのぼる将兵や民間人が餓えや病で命を落としたといえます。今も、島の所々に戦争中の痕跡が残っています。ザビエル高校の校舎壁の弾痕、日本軍が作った灯台、通信基地、戦車、高射砲、トーチカなど。ほとんどが放置されたままです。



■第4回理事会の報告  
(2月19日開催)

○ベトナム平和ツアーの報告

参加者交流会を3月2日(日) 14時から事務所で行う

○第63回定期総会期日決定

6月1日(日) 13時分30分  
会場 えきちか森ノ宮

○AALAカフェ 3月の予定

3月22日(土)

NHK映像の世紀で見る  
アメリカの謀略(仮称)

○第11次国際署名のとりくみ

今年も署名を集めます。

目標は3000筆です。  
みなさんのご協力をよろしく  
お願いいたします



編集後記

□先月号から表紙上部の見出しを変えています。郵送料の値上げが会財政を圧迫しているため第3種郵便への切り替えを考えているからです。できれば次号から変更する予定です。

□今回は、ベトナム平和交流ツアーの報告が中心になりました。今後もこのような平和と友好の学習交流旅行を実施していきたいと思えます。引き続きのご協力とご支援をよろしく申し上げます。今回参加できなかった方もまた次の機会には是非ご参加ください。

文化欄

川柳

横綱と賜杯つかんだ巴戦

トランプは目立つことには口挟む

川柳は文字面のない面白味

大阪市旭区 近藤 正

韓国デモ 以前ろうそく今スマホ

トランプに愛想笑いで握手する

万博は能登復興の人奪う

兵庫・西宮 小川 嘉憲

大阪AALA  
へのお誘い

会費 月800円(年9,600円) (25才以下は年3,000円) ※入会金 500円

\*会費の会計年度は毎年4月から翌年の3月です。半期毎に4,800円ずつご入金をお願いします。

\*会費の中には機関紙代も含まれています。月初めに大阪AALAと日本AALAの機関紙を郵送いたします。



発行

大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (大阪AALA)

Osaka Asia Africa Latin America Solidarity Committee

〒540-0004 大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F

TEL 06-6768-5360 FAX 06-6768-5361

E-mail: osakaaala@nifty.com HP: http://osakaaala.la.cocan.jp/

機関紙・宣伝委員会

